

【概要】

公開日：2020年2月6日

オランダ：潜在的な福祉詐欺を識別するための政府によるAIの使用は人権に違反 ハーグ地裁

著者：Don Jacobson、UPI

「オランダの詐欺防止システムは人権、裁判所の規則に違反している」

2020年2月5日

オランダの裁判所は、人工知能を使用し潜在的な福祉詐欺師を特定する政府のシステムは、人権とプライバシーを保護する法律に違反するため違法である、という判決を水曜日に下しました...

SyRIが2014年に導入された後、プライバシーグループ、オランダ最大の労働組合連合、および複数のオランダ市民が政府を訴えました。このシステムは、主に低所得地域で選択的に使用され、貧しい市民を不当に対象とする「監視体制を構築した」ため、人権を侵害していると主張。

「この決定は、他の裁判所が従うべき強力な法的先例となる」と、極度の貧困と人権に関する国連特別報告者のフィリップ・アルストン氏は言います。

「裁判所が人権上の理由で福祉当局によるデジタル技術の使用を停止した最初の例の1つです。」

アルストン氏は昨年、世界は、政府が福祉支出を削減するために侵入型の監視システムを使用し、民間企業に利益をもたらす人工知能技術を使用する「デジタル福祉ディストピア」に移行しつつあると述べました。

[全文（英文）を読む](#)

<全文の中から一部抜粋>

ハーグの裁判所は、オランダ政府が住宅や福祉に関する詐欺を何等かの形で犯す可能性が高い市民を予測するために使用している「SyRI」自動学習プログラムは、人権に関する欧州連合条約の原則に違反する監視システムであることを見出しました。